

平成24年度

全国学力・学習状況調査の結果概要をお知らせします

平成24年4月17日に「全国学力・学習状況調査」が行われました。大山町の調査結果について、次号（1月号）と2回に分けてお知らせします。

〔調査内容〕

- 小学校6年生、中学校3年生の抽出校の全児童生徒が対象
- 教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科の3教科（理科は、新たに追加）
- 国語、算数・数学に関する調査は、「知識」に関する問題A、「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関する問題Bを出題
- 理科に関する調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に出題
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

この調査は、教科に関する調査と質問紙調査とで構成されています。教科に関する調査は、国語と算数・数学、理科の3教科についての調査であり、児童生徒の学力の全てを見ることのできるものではありませんが、町内の各学校では、この結果を一つの手がかりとして分析し、成果と課題を明らかにして、今後の教育活動に生かしていこうとしています。

〈教科に関する調査〉

＜中学校3年生の状況＞

平均 正答率 (%)	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
大山町	76.0	62.7	63.5	48.0	53.1
鳥取県	76.0	65.2	64.0	49.5	52.4
全 国	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0

＜小学校6年生の状況＞

平均 正答率 (%)	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
大山町	79.9	53.9	71.0	55.0	59.4
鳥取県	83.2	56.2	72.8	57.3	59.6
全 国	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9

今年度は、抽出された学校が調査対象となり、本町では、小学校1校と中学校2校が対象となりました。しかし、本町では、他の学校も独自に調査を実施、採点し、町内の平均正答率を出しています。

大山町教育委員会では、学校の取組の進捗状況を把握しつつ、教科に関する調査と質問紙調査を総合的に分析し、検討を行いながら、より質の高い教育の実現に向けて取り組んでいきます。

○国語、算数・数学の両教科において、国・県・大山町ともに、問題Bの方がAに比べて平均正答率が低く、活用力の向上が課題となっています。

○小学校6年生について、大山町の平均正答率は、国語A・B、算数A・Bともに、県よりやや低くなっています。理科では、県とほぼ同じ正答率で、全国よりはやや低くなっています。

○中学校3年生について、大山町の平均正答率は、国語Aが県と同じで、全国よりはやや高く、良好な結果となっています。数学Aでは、県よりやや低く、全国よりやや高くなっています。国語・数学ともにBでは、県・全国よりやや低くなっています。理科では、県・全国よりやや高く、良好な結果となっています。